

校長先生の初恋物語

第29話 涙のオクラホマミキサー

運動会の練習で、毎日外で汗だくになっていました。この日は、運動会の表現、フォークダンス、「オクラホマミキサー」の練習です。アマーラさんが、男の子たちから手をつないでもらえない、悲しいオクラホマミキサーです。

練習が始まる前に、とっくんと、ちん君と、コージ君は、3人でよろひげ先生のところに行きました。3人は、作戦を実行しようとしていました。よろひげ先生はにこにこしながら聞いてくれて、そして最後は「もちろん、いいよ。」と言いました。

いつもだったら、身長順番に最初のペアが決まります。でも、よろひげ先生は、3人の提案を聞いてこう言いました。

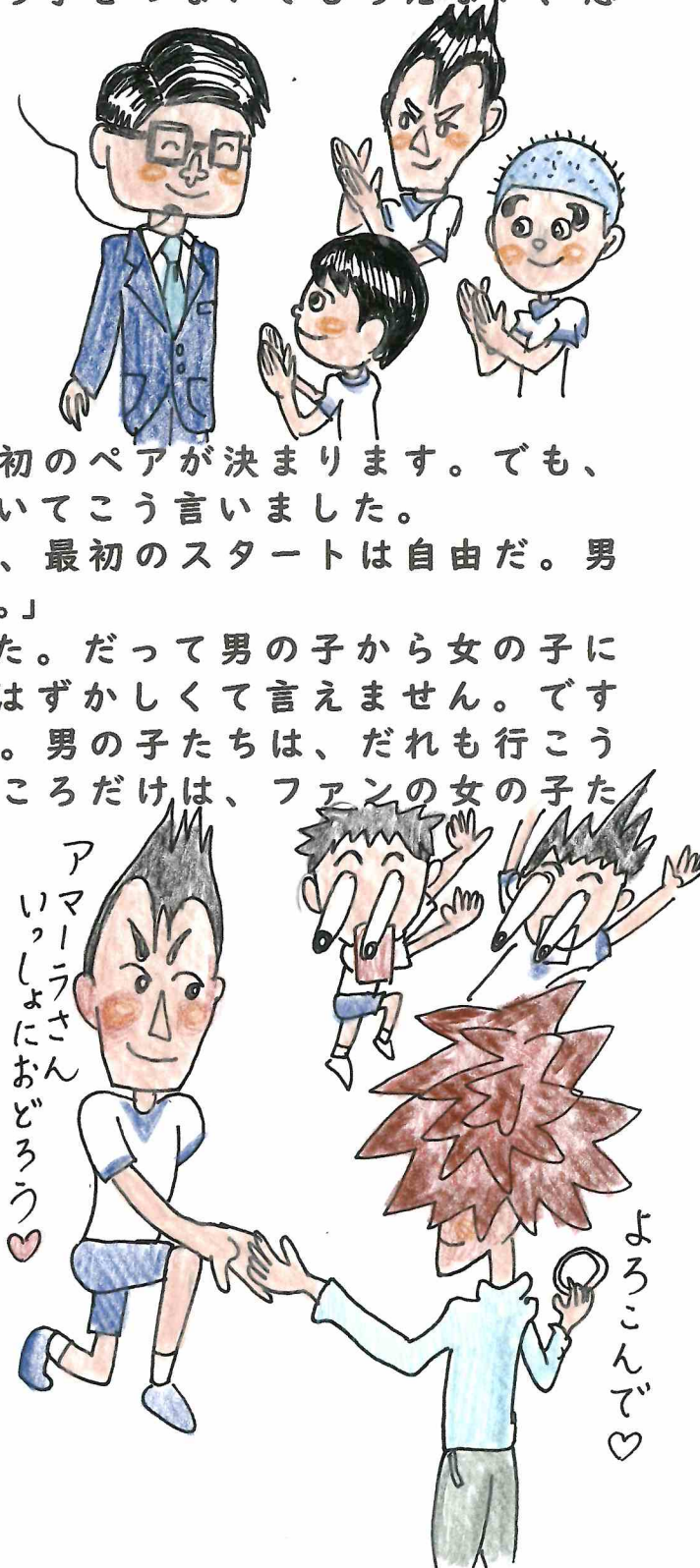
「今日は並び順を変えるぞ。みんな、最初のスタートは自由だ。男の子が女の子をさそいにいきなさい。」

みんな「えーっ。」と言いました。だって男の子から女の子に「いっしょにおどろう。」なんて、はずかしくて言えません。ですから、ペアがなかなか決まりません。男の子たちは、だれも行こうとしません。ただ1人、足長君のところだけは、ファンの女の子たちがむらがっていました。

その時です。みんなの「えーっ。」がおどろきの「えーっ。」に変わりました。それは、コージ君の行動です。コージ君は真っ先にアマーラさんのところに行って言いました。

「アマーラさん、いっしょにおどろう。」

いいぞコージ君。アマーラさんは、ポケットの中に入れてあったゴムで前髪をしばると、かわいらしく言いました。



「喜んで。」

とっくんは、ダンプさんのところに行きました。

「ダンプさん、いっしょにおどろう。」

ダンプさんは、顔が真っ赤になってしまいました。よしこさんが気になって、よしこさんを見たら、あらびっくり。よしこさんはいかりで顔が真っ赤です。でもすぐに、ファンの女の子たちをふりはらい、足長君がよしこさんのところに行っていました。一安心。

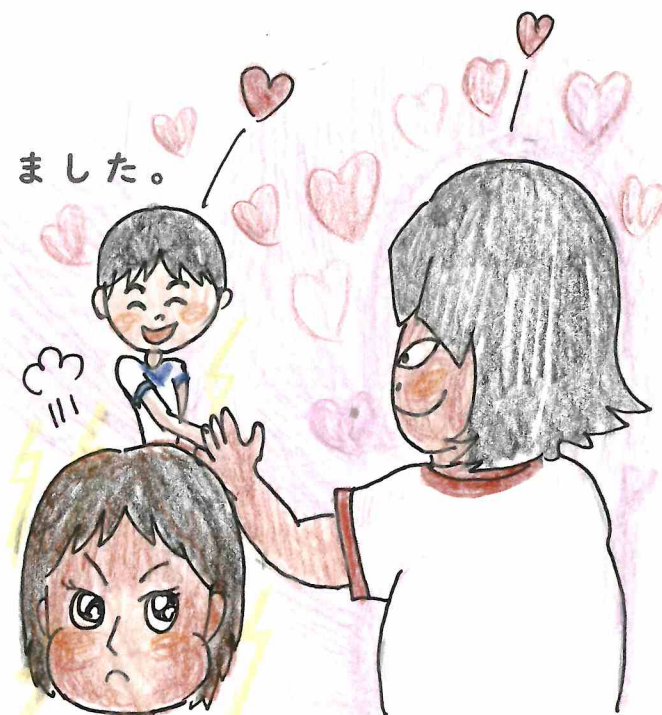
曲が始まり、踊り出しました。コージ君はアマーラさんの手を、しっかりとぎっていました。アマーラさんも、コージ君の手を握り返していました。ちん君がとっくんの方を向きました。とっくんは、ガッツポーズを返しました。

いつもコージ君と同じように、手をつながない他の男の子たちは手をつなぐことに一番いやがっていたコージ君の行動におどろいていました。コージ君とアマーラさんは、お互いに照れながら、それでもしっかり手をつなぎながら、踊りきました。そしてペアが変わりました。

コージ君のすぐ後ろの男の子も、コージ君と同じように、手をつなぎました。次の子も、次の子も、手をつなぎました。ちん君の順番になりました。もちろん、手をつなぎました。とっくんだって、アマーラさんとがちり手をつなぎました。全員ではありませんでしたが、ほとんどの男の子が、アマーラさんと、手をつないでおどりました。

とっくんはうれしくて、泣きそうになっていました。こんな感情は初めてでした。涙って、悲しいときだけじゃなくて、うれしい時もあるものなんだなあ。コージ君を見ました。ちん君を見ました。そしてアマーラさんを見ました。みんなの前で、初めてアマーラさんは顔を見せています。かわいい顔は、にこにこしています。その顔を最後に見たとき、とっくんは涙があふれてしまいました。となりの女の子が、心配するほど、おいおいと泣いてしまいました。

「本当に良かったなあ。」



次回予告 さらばミツタ

つづく